

10
vol. 248

広報 縄文村だより vol. 248 (10月号)

Jomon Times



4
夏の思い出を
みんなに

令和8年10月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928





木簡の短冊は七夕飾りになりました！

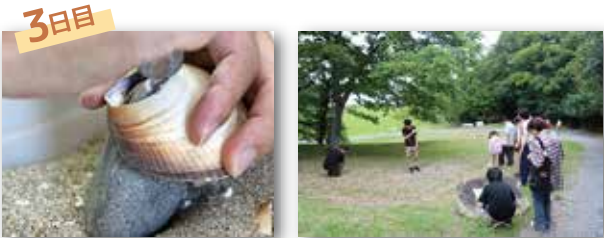


新メニューのミニ土偶・土版づくり。こんなかわいいハニワも♪

8/8～11 おいでよ、縄文村へ！

毎年恒例の夏休み企画「おいでよ、縄文村へ！」を開催しました。大人気の入館&体験無料DAYだった11日は台風接近のため中止になりましたが、3日間で236名の皆さまにご来場いただきました。

夏休み企画でしか体験できない日替わりメニューは、初登場の『ミニ土偶・ミニ土版を作ろう！』が大人気！
ほかにも木簡作りやおなじみの勾玉作り、火おこし体験など多くの家族連れでにぎわいました。



硬い貝を割って作るプレスレット作り(左)学芸員と行く貝塚ツアー(右)もありました。



夏の思い出は
こちらにもってるよ！



HP



Instagram



Facebook

みじかい夏休み、縄文村で満喫!!

8/23

貝塚の骨を研究しよう！

8月23日、「貝塚の骨を研究しよう！」を開催し、夏休みの自由研究にしたい小学生や学芸員に興味がある学生など11名が参加しました。

当館学芸員が博物館での学芸員の役割や遺跡で骨を調べる理由を講義。その後、里浜貝塚をの貝層を水洗選別し、どんなものが貝層に含まれているか調べました。次に、実際に里浜貝塚から出土した骨を使い、イノシシやシカなどの動物たちを判別する「同定(どうてい)」に挑戦しました。標本と比べながら、スケッチや観察結果を記入して学芸員と答え合わせをしました。

参加者の皆さんの知的好奇心が高まり、博物館で研究する「学芸員」のお仕事をちょっぴり体験できた楽しい夏の思い出になりました。



学芸員の仕事は幅広く、細かい仕事もたくさん！



骨はどれだろう...



骨を見ただけで何の動物が分かればあなたも学芸員！

11/8(日)は奥松島縄文村まつり！

縄文村の年に一度のおまつりを11/8に開催します。縄文体験のほか、ふだんは登場しない特別メニューを鋭意企画中！一日中縄文村を満喫できるおまつりの詳しい内容は来月号で特集します。お楽しみに！



シリーズ
第65回

東松島の教育を語る



未来を拓くグローバルな力を子どもたちへ！ 東松島市の「英語教育」

■問 教育総務課教育指導係 ☎内線1253

東松島市では、豊かな郷土愛を持ちながら、国際化の時代に外国の人々と積極的に関わろうとする子どもたちを育てるため、「英語を使って人とながら楽しさ」を実感できる英語教育の充実に努めています。

一番の大きな特徴は、国の指定(教育課程特例校)を受けて進めている「9年間を見通した外国語に関する連続した学び」です。通常は小学3年生から始まる英語の学習を、東松島市では小学1年生からスタートさせています。1・2年生のうちから歌やゲームを通して年間30時間英語に触れることで、幼少期から自然な発音や会話に親しみます。こうして小学校低学年から中学校卒業までの9年間、段階を踏んで英語の力を伸ばしていきます。

さらに、子どもたちの「もっと英語の学習をやりたい!」という挑戦する気持ちを応援する取組が「英語検定チャレンジ」です。市では英検の受検料を公費で補助する手厚い支援体制を整えるとともに、市教育委員会が年間5回程度の英検学習会を開催し、子どもたちのチャレンジを応援しています。「英語ができるようになりたい」という目標に向かって挑戦できる環境をつくることで、子どもたちが努力して合格する喜びを知り、大きな自信をつけています。

また、普段学習している教室を離れて英語を楽しく使う機会として、小学

生を対象とした「イングリッシュ・キャンプ」を市独自で開催しています。各校の英語の授業で関わっているALT(外国語指導助手)5人が集まり、子どもたちとゲームなどを通して関わる本イベントは、「英語が通じた!」という成功体験をたくさん積み、コミュニケーションへの自信を深めることができます。今年度は7月に4年生から6年生を対象としたキャンプをすでに行い、12月12日(土)に1年生から3年生を対象としたキャンプを行う予定です。

加えて、専門の知識を持つ「多文化共生教育コーディネーター」を配置し、3年生、4年生の外国語活動指導を行うとともに、外国の英語授業の内容を本市の英語の授業に取り入れた活動などを各校に提案し、英語教育の充実に取り組んでいます。

東松島市はこれからも、ご家庭や地域のみなさまと力を合わせ、子どもたちが「英語をもっと勉強したい」、「英語を使って、外国の人と話してみたい」という思いを育むことができるように英語教育の充実に努め、子どもたちの成長を温かく支えてまいります。



イングリッシュ・キャンプの様子



多文化共生教育コーディネーターの授業